■ 指定管理者制度導入施設 モニタリングシート ■

評価年度

令和3年度

1 基本情報

公の施設名	相模原市立診療所(青野原診療所、千木良診療所、藤野診療所)	
指定管理者名	日本赤十字社	
指定期間	令和3年4月1日~令和8年3月31日(5年間)	
施設設置条例	模原市立診療所条例	
施設の設置目的	シ療、看護、公衆衛生活動等を行うため	
施設概要	◆市立青野原診療所: 相模原市緑区青野原2015番地2 昭和39年2月1日(平成22年4月1日に神奈川県から移管)開設 ◆市立千木良診療所: 相模原市緑区千木良852番地8 昭和42年4月1日(平成22年4月1日に神奈川県から移管)開設 ◆市立藤野診療所: 相模原市緑区小渕1656番地1 昭和36年7月1日(平成22年4月1日に神奈川県から移管)開設	
施設所管課	健康福祉局 保健衛生部 医療政策課	

2 管理実績

	項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
利力	用者数合計(人)	15,944	12,291	13,376				
	うち 往診患者延数	269	152	197				
Ē	沴療収益(円)	160,046,152	133,917,662	143,319,635				
=	診療単価 (円)	10,038	10,896	10,715				

3 成果指標の達成度

評価(5評価)		評価理由・委員会意見					
S	令和3年度は、令和2年度対比で129.6%と目標を大きく上回る訪問診療を実施し、津久井地域の医療体制に寄与している。						
指標	指標						
指標名(単位)	訪問診療の利用	訪問診療の利用者数(地域住民が必要な医療として需要の増加が見込まれるため)(人)					
指標式と指標の説明	3診療所の年間	3診療所の年間累計(目標値は前年度実績)					
項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(人)	-	-	152				
実績値(人)	269	152	197				
達成度(%)	_	_	129.6%				

4 事業の実施状況

評価(5評価) 評価理由・委員会意見 市が指定する事業については協定書及び仕様書に基づき、適正に遂行されている。また、発熱診療等医療機関に協力し、コロナ禍における地域医療に貢献している。

市が指定する事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
地域住民に対する初期医療の提供及び 病診連携による地域の医療水準の向上	通年	津久井地域における診療所として、相模原赤十字病院等と 連携し、地域医療体制の維持に貢献した。	0
訪問診療の実施による在宅患者の支援	通年	訪問診療を年間を通して実施した。 (延べ往診患者人数:197人)	0
公衆衛生活動等の実施による地域住民の健 康増進	通年	健康診断及び予防接種を実施した。 (1診療所あたり月平均15日実施)	0

企画提案事業

主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
(なし)			

自主事業

ĺ	主な事業名	実施時期	内容・回数・参加者等	評価
	(なし)			

5 利用者の満足度

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
Λ	令和3年度は全ての診療所において新たな医師が勤務し、関係性を構築するため丁寧な診療を行ったことにより、一人当たりの診療時間が増えた。また、令和2年度よりも受診者数そのものが増加した。これらにより待ち時間に関する評価が下がった。その一方で、医師に対する親しみや信頼など好意的な意見が多く寄せられ、「また利用したい」という意見は96.4%と高い水準を維持している。

利用者満足度調査

「診療所職員の対応」、「診療待ちから会計までの待ち時間」項目において、利用者を対象にアンケート調査を 実施した。 サンプル数: 青野原…106、千木良…141、藤野…215 実施時期: 令和4年1月11日~令和4年1月29日 目標値の基準 利用者から「また利用したい」との評価を受けている合計の割合が前年度までの平均値を上回ること

項目(単位)	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
目標値(%)	92.4	92.7	92.9				
実績値(%)	95.4	95.4	96.4				
達成度(%)	103.2%	102.9%	103.8%				

6 施設の経営状況

評価(5評価)	評価理由・委員会意見
.	令和3年度から新たな指定期間に入り、指定管理基本額及び修繕費の積算を見直し指定管理料が増額したこと、また、コロナ前の水準までではないが受診者数が回復し診療収入が増加したことなどにより、収入は増加した。支出については、薬品費が減少し、また、常勤医師を配置できたことによる代診(派遣)医師費用が減少した。これにより、令和2年度と比較して収支は大きく改善した。

施設の収支概要 ※直近3年	施設の収支概要 ※直近3年間について記載 (P						
項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度				
収入 (a)	189,355,016	207,775,627	223,696,302				
指定管理料	29,034,370	29,300,740	61,945,000				
利用料金収入	160,046,152	133,917,662	143,319,635				
その他の収入	274,494	44,557,225	18,431,667				
支出 (b)	185,630,811	199,649,973	192,193,289				
材料費	51,761,295	42,442,556	35,268,608				
給与費	93,161,181	90,251,839	105,111,604				
委託費	25,007,841	51,501,553	36,468,110				
設備関係費	9,701,931	6,945,525	7,267,458				
その他の支出	5,998,563	8,508,500	8,077,509				
本体事業収支 【(a)-(b)】(c)	3,724,205	8,125,654	31,503,013				
自主事業収入 (d)	0	0	0				
自主事業支出 (e)	0	0	0				
自主事業収支 【(d)-(e)】(f)	0	0	0				
全体収支 【(c)+(f)】	3,724,205 8,125,654		31,503,013				
備考							
団体の財務状況	状況 団体本体の経営状況について特段の問題はない。						

7 管理業務の履行状況

検査方法	現地確認、書類提出及び指定管理者へのヒアリング
実施時期	各診療所、指定管理者:令和4年9月15日実施

検査項目	確認結果	備考
管理業務	適正に実施	仕様書に定められた業務が適正に実施されていること及び環境配慮 への取組みが行われていることを確認した。
危機管理	適正に実施	安全管理・衛生管理・危機管理に関するマニュアルが整備され、緊急連絡体制が確立されていること確認した。
人員配置・地元活用	適正に実施	事業計画書及び従事者に関する届のとおりに人員が配置され、勤務体制や労働条件・環境に問題がないことを確認した。また、地元活用について事業計画及び第三者委託承認申請書のとおりに実施されていることを確認した。
現金管理	適正に実施	現金受払簿が整備され、売上(診療報酬)、両替金、手許金等が適切に管理されていること、また売上(診療報酬)が毎日入金されていることを確認した。
会計・経理	適正に実施	通帳の出入金記録及び仕訳伝票にて、指定管理料及び文書料が 適正に管理されていることを確認した。
情報セキュリティ	適正に実施	医療情報システム運用管理規程が整備され、従事者への周知(研修)が行われていること、ID及びパスワードが適正に管理されていること、PCにウイルス対策ソフトがインストールされていること、外部と通信を行うPCについてはファイアウォールが有効になっていることを確認した。
情報公開・個人情報保護	適正に実施	プライバシーポリシー、情報開示に関する規程、文書管理に関する規程が作成されていることを確認した。また、文書管理に関する規程に基づいて文書が作成されていることを確認した。
市への報告事項・事前承認等	適正に実施	業務の再委託、備品の調達と廃棄、従事者の変更について報告及 び事前承認が行われていることを確認した。
加点事由		具体的内容

8 ウェブアクセシビリティ

ホームページの作成 無

ウェブアクセシビリティの取組項目	取組状況
機種依存文字を使っていない。	
ページ内の文字の大きさを変えることができる。	
単語の途中にスペースや改行を入れていない。	
ページ内容を的確に表しているタイトルが付いている。	
ダウンロードできるファイルには、ファイルの種類とサイズを記載している。	
画像には、代替テキスト等を付与し、支援技術利用者にも適切な代替情報を提供している。	
背景色と文字色にコントラストを確保するなど、色使いに配慮している。	
その他取り組んでいること	

9 指定管理者の自己評価

令和3年度も新型コロナウイルス感染症拡大による影響はあったが、青野原診療所と藤野診療所に常勤医師を配置できたことにより、患者の確保による医業収益も増加し医師派遣費用の抑制にも繋がった。また、指定管理料の増加と相模原市からの運営支援金等の補助金により収支状況は黒字となった。課題としては病診連携が昨年度に対して紹介数が56人減少しているため、今後は相模原赤十字病院を基軸に近隣医療機関との機能連携及び地域開業医などとの連携を一層強化し紹介患者の増加を図りたい。現状は指定管理料により黒字となっているが、質の高い医療を目指しつつ経営改善できるよう努めたい。

10 所管課意見

令和3年度は2つの診療所(青野原、藤野)で常勤医師を配置できたことにより、代診(派遣)医師の費用が減少し収益性が向上するとともに、医師に対する親しみや信頼など利用者満足度の維持にもつながったことが伺える。新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に加え発熱外来にも対応し、施設の設置目的である診療、看護、公衆衛生活動等に貢献できている。

11 選考委員会意見

- ・地域医療への貢献度は高く評価できるものの、コロナ感染症対応のさらなる充実化を求めたい。特に第7波では検査を受けられない発熱患者が多数発生する状況が見受けられ、コロナ検査体制の整備が望まれる。
- ・医師会への積極的参加により、地域医療への別な切り口での貢献をお願いしたい。また、病診連携、診診連携の強化という点においても医師会への積極的参加をお願いしたい。
- ・コロナ禍という厳しい状況の中、健全な運営がなされている。利用者満足度調査結果では、どの診療所においても基本的に高い評価を得ているが、「診療待ちからお会計時までの待ち時間」や「医師の定着」につき、否定的な意見があるようなので、今後の改善に期待したい。
- ・人口減少地域であり、高齢化が顕著な状況で、身近な地域の医療拠点として、十分に役割を果たしていると認められる。ウィズコロナ、アフターコロナに向け、訪問診療などへの期待も高まってくると考えられる。限られた資源の中で大変だとは思うが、工夫を重ねられたい。
- ・通常時であれば、利用者数、施設の収支等について、前年度との比較で評価すれば足りていると考えるが、R2年度、R3年度とも新型コロナウイルスが流行しているので、コロナ流行前との比較で評価するのが望ましい。

